

官民連携栄養改善事業推進プラットフォーム 国内セミナー

NJPPP活動の振り返り

2022年8月26日（金）

栄養改善事業推進プラットフォーム（NJPPP）事務局
山口隆司

本日のアジェンダ

1. NJPPP設立と国際的な栄養改善の流れ

2. NJPPPプロジェクトについて

3. 今後の展開

栄養改善事業推進プラットフォーム活動内容

- セミナーやシンポジウム、相談会等の開催
- 途上国・新興国の現地調査、情報収集
- プロジェクトの発案と実現
- 関係する民間企業、国際機関、学術研究機関等との連携
- ホームページでの情報発信、イベントでの広報活動
- 栄養改善事業に関する相談窓口

サカタのタネ SAKATA

PASSION in Seed

サカタのオリジナル品種を活用し東アフリカで野菜の栽培指導を実施。農家の生産力向上と経営安定化を通じて、栄養改善に取り組む



kikkoman
おいしい醤油をつくりたい。

ケニアの雑穀粥を発酵させて甘味を与え、パフ加工した大豆を添加し、栄養を強化。醤油醸造技術の活用で学校給食等の栄養改善を検討中。



THE AJINOMOTO FOUNDATION

ベトナムでは教育訓練省・保健省と組み、美味しく栄養バランスの良い学校給食のシステムを全国に導入。並行して国立栄養研究所とともに栄養士の教育、制度創設プロジェクトを推進中



栄養改善事業推進プラットフォーム (NJPPP) 共同議長



独立行政法人国際協力機構

〒102-8012
東京都千代田区二番町5-25 二番町センタービル

JFIA Japan Food Industry Association

一般財団法人 食品産業センター

〒107-0052
東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル

お問い合わせ先

専用メールアドレス

njppp@shokusan.or.jp

お問い合わせフォーム

<https://fs223.formasp.jp/g263/form1/>

NUTRITION
JAPAN

途上国・新興国における栄養改善事業を推進する官民連携の取組

栄養改善事業推進プラットフォーム

Nutrition Japan Public Private Platform (NJPPP)

ご案内

日本はかつての栄養不良の時代を学校給食や栄養教育などの政策により乗り越えてきた歴史があり、栄養改善に関して優れた知見を持っています。

2013年に英国政府のイニシアティブで作成された「Global Nutrition for Growth Compact」に呼応し、日本政府は、栄養改善に向けた官民連携パートナーシップを先導するとともに、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けて世界的な栄養改善の取組を強化することを表明しました。

また、日本政府は2014年に健康・医療戦略において「新興国・途上国を含む各国の栄養改善のため、官民連携を通じた包括的ビジネスを含む事業の国際展開を進める」とこととし、この「**栄養改善事業推進プラットフォーム (NJPPP)**」が2016年に設立されました。その後、2017年に日本政府は2020年に東京での栄養サミットの開催を宣言しました。

本プラットフォームは、途上国で栄養改善に関わる食品関連企業のビジネス環境を整備し、**官民の連携による栄養改善事業の推進を目的**としています。企業の成長と社会課題の解決に向け、CSR（企業の社会的責任）を超えてCSV（共有価値の創造）の実現を目指しながら取組を進めていきます。



新たなビジネスチャンス創設や情報交換の場として、ぜひご参画ください。

栄養改善事業推進プラットフォームとは？

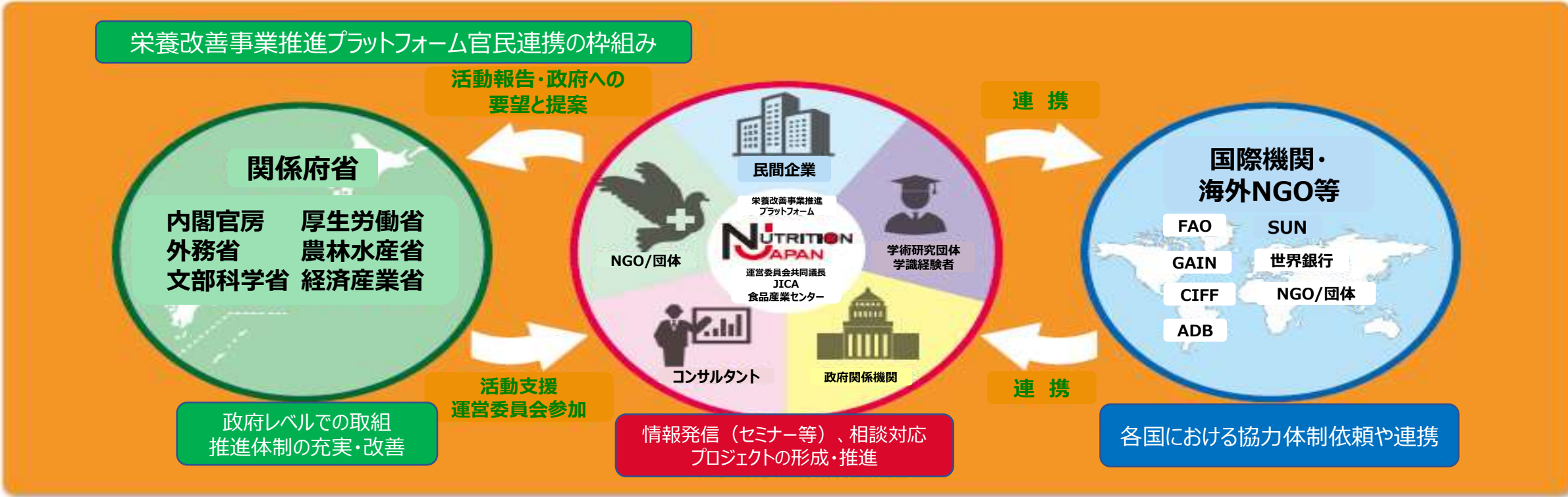
Nutrition Japan Public Private Platform (NJPPP)

「栄養改善事業推進プラットフォーム(NJPPP)」とは、官民連携で栄養改善事業を推進する枠組みです。日本の技術と知見を活かした民間企業のアイデアをベースに、栄養改善効果が期待できる途上国の国民向け食品供給事業などの**ビジネスモデル構築を目的**としています。本プラットフォームの活動は政府や海外の関係機関とも連携して、一体的に進めていきます。

栄養改善事業推進プラットフォーム (NJPPP)
公式webサイト <http://www.njppp.jp/>

入会のご案内

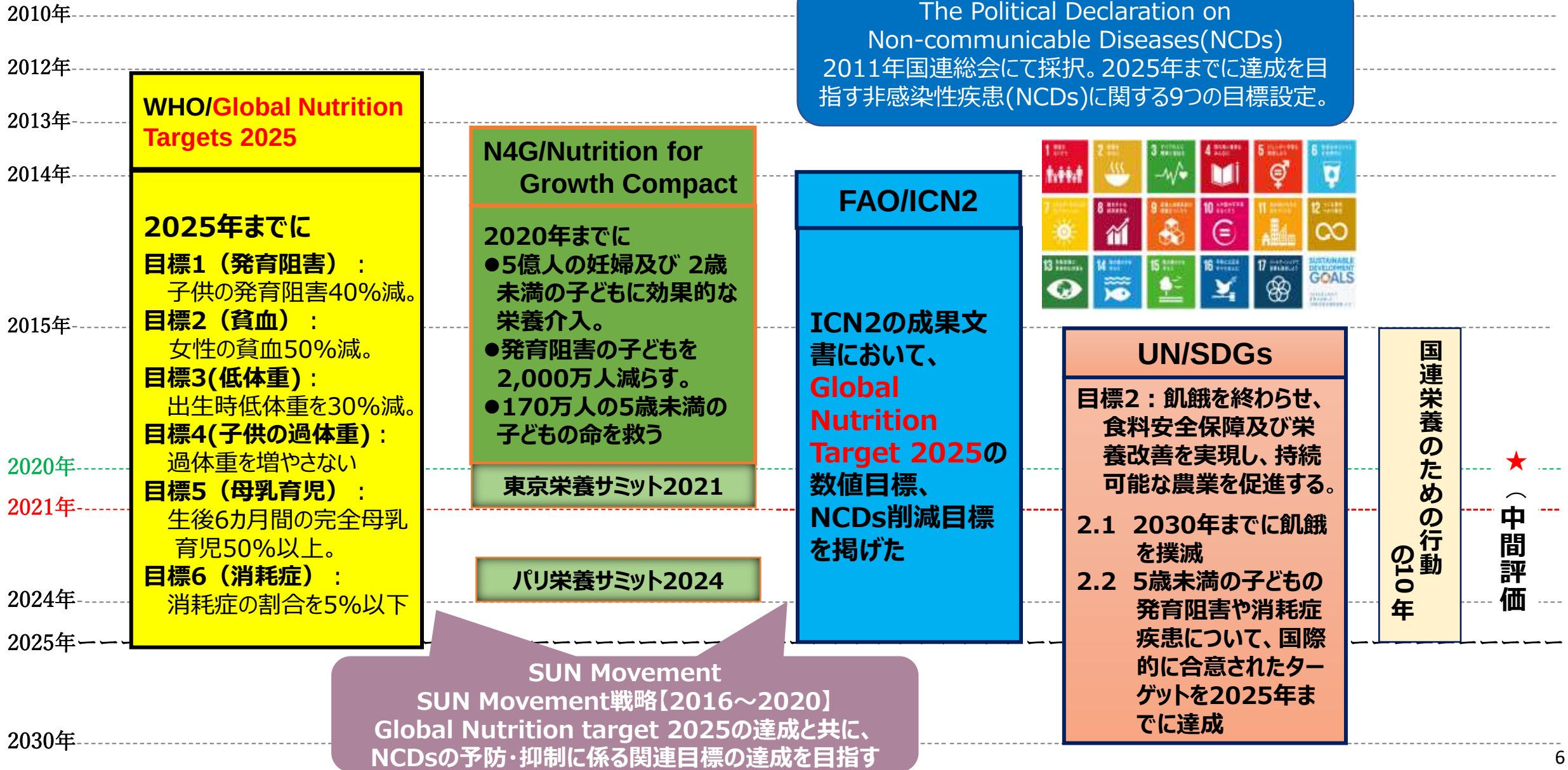
栄養改善事業推進プラットフォーム(NJPPP)について賛同される企業／団体の皆様のご入会を随時募集しております。ご希望に合わせて「事業者会員」「一般会員」からお選びいただけます。詳細、お申し込みについては公式webサイトをご確認ください。
会費：一般会員は、**無料**です。



加入企業例
(順不同)



栄養に関する期限付きの国際的な目標



我が国の国際協力の指標とするべき

2025年までに（WHA Global Nutrition Targets 2025）

目標1：発育阻害（Stunting）	五歳未満時 の発育阻害の割合を 40%削減
目標2：貧血（Anemia）	生殖可能年齢の女性 の貧血を 50%削減
目標3：低体重（Low birth weight）	出生時 の低体重を 30%削減
目標4：過体重（Childhood overweight）	体重過多の 子ども を増やさない
目標5：母乳育児（Breast feeding）	生後6ヶ月間 の完全母乳育児を 50%以上にする
目標6：消耗症（Wasting）	消耗症 の割合を 5%以下に減少・維持

2025年までに（WHA Global Monitoring Framework on NCDs）

目標1	肥満と糖尿病の増加阻止
目標2	塩分摂取量を 30%減少させる
目標3	高血圧の 25%減少

本日のアジェンダ

1. NJPPP設立と国際的な栄養改善の流れ

2. NJPPPプロジェクトについて

3. 今後の展開

これまでの活動

途上国・新興国の栄養改善に向け、職場給食の改善に取り組むプロジェクトを実施するほか、栄養改善に関連するテーマでセミナーを開催

【過去実施プロジェクト】

1. インドネシアプロジェクト

- ① 「職場給食のメニュー改善を通じた栄養改善」プロジェクト
- ② 「給食提供による栄養改善」プロジェクト

概要：工業団地で働く日系企業の従業員を対象に、バランスの良い給食の提供・栄養教育を実施

2. カンボジアプロジェクト

- ① 「栄養強化米を使用した健康増進」プロジェクト

概要：工場勤務の妊娠可能年齢の女性従業員を対象に社員食堂で微量栄養素強化米を導入・栄養改善効果を測定

- ② 「ブロックチェーン技術を応用した栄養啓発」プロジェクト

概要：スマートフォンアプリを用いた記録・教育・インセンティブの仕組みづくりと工場勤務の従業員に対する参加の促進

3. ベトナムプロジェクト

「啓発型QOL健診と栄養改善プログラム」プロジェクト

概要：日系企業従業員に対し、啓発型QOLトライアル健診を実施

4. ミャンマープロジェクト

「給食事業を通じた職場の栄養改善事業調査」プロジェクト

概要：工場の従業員を対象とした栄養バランスのとれた工場食、栄養強化米の提供及び栄養啓発活動を実施

【令和3年度実施プロジェクト】

1. カンボジアにおけるふりかけを通じた食習慣改善プロジェクト

概要：廃棄される魚の骨を用いたふりかけを開発し、普及と定着を通して人々の栄養改善及び食習慣改善を目指す。小学校にてふりかけを配布し、食習慣に関する調査を実施。

2. フィリピン米の栄養強化プロジェクト2021

概要：鉄強化米の低普及率の原因を明らかにすることで、コメの栄養強化をビジネスとして実現させるとともにフィリピン国内の貧血の改善や栄養不良の改善に貢献する。現地パートナーである国連WFP(フィリピン)と連携し、調査内容（サプライチェーンやアドボカシー、キャンペーン（行動変容コミュニケーション）における問題点）を検討中。

3. ベトナムでの健康食品活用及び野菜摂取促進に関する基礎調査

概要：野菜・果実の摂取量を向上させ、生活習慣病予防につなげるため、野菜や果実を使用した健康食品を効果的に普及させるための基礎調査を実施。健康食品に関するアンケートの他、ヘルスクレーム商品の事例調査を実施。

4. インドネシアにおける野菜摂取促進に関する調査2022

概要：人々の野菜摂取に対する認識を調査し野菜摂取量の増加を妨げている原因を特定することで、人々のニーズに合った野菜を供給し、野菜摂取の促進と栄養改善につなげる。①野菜摂取に対する意識調査のため、インタビューを実施。②国レベルの代表的なデータを用いて解析し、インドネシアにおける野菜摂取の現況を把握。

NJPPPプロジェクト／ポイント

1. 東南アジアでのプロジェクト

2. プロジェクトの概略

- ◆ 栄養改善の実証
- ◆ 栄養教育・リテラシー向上

3. プロジェクトの展開

本日のアジェンダ

1. NJPPP設立と国際的な栄養改善の流れ

2. NJPPPプロジェクトについて

3. 今後の展開

国連食料システムサミット（FSS）の成果

【目的・アクショントラック】

2030年までのSDGs達成のため、食料システムの変革が不可欠と認識、具体的な行動を議論（国連事務総長主催）

1. 全ての人に安全で**栄養価の高い食料へのアクセス**を確保（食料安全保障）
2. **持続可能な消費パターン**への移行（食料消費の持続可能性）
3. 自然に対してポジティブな生産を十分な規模で促進（環境に及ぼす影響への対処）
4. 公平な生計と価値の分配の促進（収入確保）
5. 脆弱性、ショック及びストレスに対する強靱性の構築（**食料サプライチェーンの強靱化**）

【成果】

1. SDGsの達成を可能にする測定可能な**成果**及び影響を伴う重要な**行動**と行動へのコミットメント
2. SDGsの達成につながる**食料システムの重要性**
3. 食料システムの能力を活用するための指針となるプロセスを通じて確立された一連のハイレベルの原則
4. **フォローアップとレビュー**のシステム

東京栄養宣言(コンパクト) (骨子)

- 健康で生産的な生活には良好な栄養が必要。誰一人として取り残されてはならない。栄養は個人の健康と福祉の基礎であり、持続可能な開発と経済成長の基盤。
- 多くの国が「栄養不良の二重負荷」に苦しむ。新型コロナにより、子どもの栄養不良が増加。
- 健康な食事と栄養改善への公平なアクセス達成に向けて団結する。2030年までに栄養不良を終わらせるため、以下5つのテーマにわたって栄養に関する更なる行動をとることにコミットする。

1. (健康) 栄養のユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) への統合

保健システム強化が栄養不良改善に不可欠。UHC達成は栄養不良を終わらせるために最も重要。

2. (食) 健康的な食事の推進と持続可能な食料システムの構築

栄養を確保する強固な食料システム構築が必要。栄養価の高い食品へのアクセス改善にコミット。

3. (強靱性) 脆弱な状況や紛争下における栄養不良に対する効果的な取組

良好な栄養は人々とコミュニティの存続の中核。

4. (説明責任) データに基づく説明責任の促進

コミットメントをモニターし、更なる行動を促進するため、栄養説明責任フレームワークを立ち上げ。

5. (財源) 栄養の財源への新たな投資の動員

栄養への投資が重要。次回栄養サミットへの期待を表明

- 農林水産省

みどりの食料システム戦略

(持続可能な食料生産・消費のための官民円卓会議)

- 厚生労働省

自然に健康になれる持続可能な食環境づくりの推進に向けた検討会(令和3年2～6月)

【食塩（ナトリウム）の過剰摂取】

① 健康的で持続可能な食環境戦略イニシアチブ／厚生労働省

② 食環境整備推進のための産学官等連携共同研究プロジェクト／国立健康・栄養研究所

- アカデミア

第22回国際栄養学会議

東京国際フォーラム（2022年12月6日～11日開催）

- NJPPP/BCG

TICAD8（チュニジア：8月下旬）

パリ栄養サミット2024

ご清聴ありがとうございました。

NJPPP ([栄養改善事業推進プラットフォーム | Nutrition Japan Public Private Platform \(njpppp.jp\)](https://njpppp.jp))